

猿 橋  
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## 唯一無二の個性を磨く

校長 澁谷 一男

学校から臨む二王子岳は、一面に雪花をまとい、山肌の谷間を一層際立たせている。里にも雪が降り、日ごとに家並みも寡黙の相を深めていく。長く厳しい冬も本番を迎えた。

「唯一無二」 去る12月2日に当校で行われた講演会の講師、ちゃい文々ぶんぶんさんが大切にしておられる言葉だ。

「この世界で、あなたはたった一人しかいない大切な存在。人はみんな違う、違うから素晴らしい。そして、その違いにおいて等しく尊い『唯一無二』の存在なのだ。

自分には何もないと嘆くより、生まれながらに持っている自分にしかないきらきらした個性に目を向けてほしい。唯一無二のあなたが、必ずそこにいるから。」

自分に自信が持てず、誰かと比べて悩んでしまう。誰しも時に辛い気持ちになることがある。そんな時、ちゃいさんは、いつもこの「唯一無二」という考えに立ち返るのだという。

ダイヤモンドの加工にはダイヤモンドを使う、と以前聞いたことがある。天然の鉱物ではダイヤモンド以上に硬い物質がないため、ダイヤモンドの粉末を研磨剤にして磨くのだそうだ。ダイヤモンドの原石が、同じダイヤモンドで磨かれて美しく光り輝く様は、人間に似ているようにも思える。

唯一無二の個性と無限の可能性を秘めた子どもたちは、まさにダイヤモンドの原石だ。が、原石は磨かなければ光らない。個性も磨かなければ光らない。そして、ダイヤモンドを磨くのがダイヤモンドであるように、人も人によって磨かれることが多い。様々な人と関わり、その中で多くのことを学んでこそ光るのだ。

授業中は友達との対話や話し合いによって、時には地域の方々やゲストティーチャーとの交流を通して、自分の考えを広げたり、深めたりしてきた。学校行事では、友達と協力し合い、時には競い合って、互いを高めてきた。清掃や集会活動では、異学年同士の関わりを通して心を育ててきた。「ともに きらきら かがやこう」瑛玖良校の合言葉どおり、子どもたちは多くの関わりを通して成長し、個性を輝かせた。実に実りの多い2学期だったと思う。

年末・年始、家庭で地域で、子どもたちを待っているのはどんな人たちとの関わりか。

よいお年をお迎えください。

